



みなみかぜ

令和3年度学校教育目標

「ふるさとと人を愛し、自らの夢に向かって、力強く歩み続ける子どもの育成」

君たちはどう生きるか

何の話だと思われたのではないのでしょうか。これは、火曜日の全校集会(朝活)の時に話したことです。「君たちはどう生きるか」(著者:吉野源三郎)という本の主人公を紹介しました。

この本の主人公は、コペル君というあだ名がついた中学生です。コペル君は、ニュートンがりんごが木から落ちるのを見て、地球にはものを引っ張る力があるという万有引力の法則を発見したことについてコペル君なりに考えます。もしりんごがもっと高いところから落ちたらどうなるのだろうと考え、りんごの枝をずっと伸ばして空まで行って、さらに月まで伸ばしていったらどうなるのだろうと考えました。月はなぜ地球に落ちてこないのだろうと不思議に思いました。

この本の作者は、今の時代はインターネットやパソコンですぐに調べることはできるが、自分で不思議に思ったり、疑問に思ったことを自分の頭で考えて、そこからいかに自分の考えをもつかが大切だと言っています。そして、これからの時代を「君たちはどう生きるか」と問いかけています。

子どもたちには、ドローンが物を配達している写真や自動運転の車の写真を紹介して、これからはAIが発達して人間の代わりにロボットがいろいろなことをやってくれる時代が来ようとしていることも話しました。

そんな時代に人間がやるべきことは何か、人間は何ができるようになっていけばいいのか子どもたちなりに考えてほしいと思いました。



最後に身近にある?の例として、マンホールのふたを問題にしました。マンホールのふたは、みんな丸の形をしています。四角や三角などはありません。

その理由を考えてもらいました。道路には必ずあって、登校の際にも何度も見ているはずですが、そこに?を感じる事ができるかが大切です。

答えは、丸い形のとときだけが、吹き上がったたり、浮き上がったたりしても下に落ちていくことがないからです。四角や三角の場合には、向きによって下にすっぽりと落ちることがあります。



もう一つ問題を出しました。紙コプターです。紙を切って羽根をつくり、下にはクリップでおもりをつけます。右の紙コプターは丁度左の2倍の大きさでつくってあります。

手を離すと、クルクルと回って落ちていきます。「同時に手を離すと、長く飛んでいるのはどちらでしょう。」と子どもたちに問いかけました。

小さい方が滞空時間が長いと考える子ども、大きい方が滞空時間が長いと考える子ども、いやいや同じだと考える子どもなどいろんな

子どもがいます。答えは教えませんでした。実際に自分で確かめてくださいと伝えました。各教室に配布したり、職員室の前に置いたりしました。

この後が高森中央小の子どもたちのステキなところ。校長室に結果やその理由を伝えに来る子どもがいたり、職員室ですれ違う際に自分の考えを伝える子どもがいたりしました。「5回やって確かめました。自信があります。」という子どもや中には30回も実験した学年もあったそうです。自分の頭で考え、確かめる子どもってステキですね。